



せせらぎ通信

金目川の野鳥(カワセミとコチドリの子育て) 佐藤道夫

2022年のせせらぎ通信(60, 61号)でカルガモ親子を取り上げたが、今回は、カワセミとコチドリの子育てに関する姿を、写真を中心にして紹介してみたい。

カワセミ編では、①メスがオスから魚を受け取って飲み込もうとしている。オスはメスが食べやすいように魚の頭をメスに向けて差し出していた。②～④は、巣穴を作成中。③後ずさりして尾から飛び出し、空中で反転するのは、まだトンネル作成初期。④産室ができると頭から出てくる。⑤排水口を巣穴にしようかと検討中。⑥幼鳥は嘴が短く、胸や足の指が黒ずんでいる。⑦まだ親に食べ物をねだっている段階。⑧おすましをしているのかな? ⑨川で魚を捕まえていたと思ったら葉っぱだった。まだ練習中? ⑩もう独り立ちして魚を捕まえた。⑪白い尿を排泄中。⑫ペリット(骨や鱗など未消化物)を苦しうに口から吐くところ。⑬幼鳥でも縄張り争いに加わるのだ。

コチドリ編では、①オスはメスの横で足踏みして愛情表現をする。②カップル成立。③河原の石ころの間に簡単な巣を作り抱卵する。④3ヶの卵を抱いていた。⑤メスとオスで交代して抱卵する。メスの方が熱心。⑥もちろん雨の中でも。しずくが頭で跳ねても何のその。抱卵期間は3週間ぐらい。この時は大水で無残にも卵は流されてしまった。⑦卵に敵が近づくとケガを装って敵を自分に引きつける。⑧ある日、足がたくさんある成鳥がいた。⑨なんと、親の胸の下から出てきたのは小さな雛だった。⑩コチドリの雛は卵から生まれてすぐに歩き出す。⑪自分でミミズも上手に引き抜いていた。親はしっかりと3羽の雛を守っていた。

カワセミ編



①オスがメスに魚をプレゼント



②巣穴作成中



③尾から巣穴を出る



④頭から巣穴を出る



⑤巣穴にできるかな?



⑥幼鳥: 枝に留まる



コチドリ編



金目川下流。花水川の現状と夢

府川 きよし

鈴川と洪田川が合流し、平塚大橋を過ぎ、金目川と合流した所から下流を花水川といいます。金目川流域に降った雨水が全部集まり相模湾に合流する川です。七〇年ほど前、私が子供のころ旧市内で一番豊かな農地・田畑が川の両岸に広がっていました。その後、都市化が進み農地はほとんど失くなりました。この辺りの最近の変わり様を書きます。

最近一〇年の間に二度の豪雨が
あり、川底まで七メートルありますが、土
手まで二度ともあと一メートルで溢れる
体験をしました。そのため国土強靱
化対策の対象となり、ここ数年、当
地も以前より確保されていた土地
の川幅の拡張工事、積み上がった
土砂の除去、土手の補強が行われ
ています。工事も最終盤になり、右
岸の河口に近い下花水川橋を下り
河口の花水川橋に近い部分の拡張工事が始まっています。
なお、花水川橋の上り側の古くなった建替え・架橋工事も近
く始まります。

ここ数年は河川敷によく育った雑木林と積った土砂の除去がほぼ終わりました。まだ一部に残骸や土砂などが残っています。二十数年前にも川幅三〇メートルの拡張工事、高麗大橋の架橋などもありました。ですから花水川は以前より相当大きな川に様変わりしました。七〇年ほど前の小学



生のころ、国道一号線の花水橋付近の左岸での貴重な体験を書きます。

川岸を上流へ向かうウナギの稚魚・シラスウナギ（ソーマン）と言っていたこの群れ・数列（れつ）や一〇列ぐらいだったか。その列がずつと続いて途切れていなかった。誰もソーメンを採る人はいなかった。まだウナギの養殖が盛んでなかった時代だったのでしょう。

今だったら根こそぎ網で掬われていることでしょう。当時ウナギはどの支流にも一杯生息していたのです。

ウナギは捕らえられ、蒲焼になっていたのです。今では考えられません。

ことほど左様に。生態系が豊かでした。シジミも、ナマズもフナなども沢山いました。よく捕り、釣りもして食べました。みんなで泳ぎました。水は臭くなく、澄んでいました。川が子ども遊び場として造られていました。

今はどうでしょうか。危ないから川に入ってはいけないと言われています。このような川から、大人も子どもも楽しく安全に遊べる生態系も豊かな川にしたいというのが、わたしの願いというか夢でもあります。いつか、そういう川にしたいものです。私は遠くない未来には、必ず実現できると思っています。



5月7日(火)

2000年から継続している

機能別訓練会の

みずほ会へ出前講義

テーマは

金目川の自然を知ろう



●金目川の水源は岩の傾斜地から湧き出てほとばしる水です、水源にはブナの小さい新芽が、左右のあちこち育っています。小さな双葉は太陽の光を喜んで受けている。昔から水を豊かにするため地域で共同して大切に管理している。

●自然災害の豪雨 濁流の金目川 2012.7

この日、夜中じゅう豪雨で心配した、早晩、土手がやられていることを検分して、あと近くの金目小学校の土手道はひたひたと流れが押し寄せていました、さらに、30分の豪雨が続いたら氾濫の危機でした。

この講義をみずほ会の人たちは熱心に必死に聴いてくれた。響きが私に伝わり熱のこもった語りを頑張りました。



5月14日(火)

金目小の金目川生き物クラブへ

活動がスタートする前の

注意等レクチャー

金目小学校の金目川生き物クラブは2022年4月からクラブ活動が始まり、金目川水系流域ネットワークは最初から学校側と協力し合い進行了たしました。

長い間、平塚ライオンズクラブから寄贈された大型水槽は使われていませんでしたが、この2年間で金目川生き物クラブ員が金目川で取れたオイカワ・ヨシノボリ、アブラハヤなどが放流されて体長が立派に大きくなっています。

金目小学校では金目川生き物クラブの人数が高まり2024年度はクラブ員が20名となりました。クラブ員へ金目川での魚取りの注意として当会の露木が指導いたしました。



① 安全が大丈夫か常に注意する。川の

自然は穏やかな時と厳しい時があり

天気推移をしっかりと見守る。

② 川の深さは膝までのところにする。川は急に深くなるので深いところは

だめです。

③ 履物が大切です。はだしは厳禁です。とってはいけない魚、例 アユは6

④ 月から10月14日まで禁止です。魚は石のそば、石の下、水草の生えて

⑤ るところ、草や木の根元、流れがゆるい川のふちなどです。

●生徒たちの素直でまっすぐな、そして、快活な学びの姿勢は、すぐに手を挙げて自分の考えを出せる雰囲気は高度な教室でした。

報告者 柳川 三郎

